

# 体育科部会

**研究主題** 一人一人が運動の楽しさを知り、意欲をもって取り組む体育学習

## 1 主題について

従来の研究テーマをうけ、本テーマを設定した。部活動、スポーツ少年団活動などで運動に積極的に取り組んでいる子どもと、全く取り組まない子どもとの2極化傾向が進んでいる。そうした中で運動の楽しさを知り、実生活の中で運動に親しもうとする態度を育てることは、生涯にわたり重要なことである。今年度は主に、ボール運動を素材として研究を進めてきた。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月30日	第2回総合研究会 授業研究会（城西小学校）
6月12日	実技研修会（城西小学校）		

## 3 研究内容

### (1) 実技研修

- ・期 日 平成26年6月12日（木） ・会 場 城西小学校
- ・内 容 子どもの体力向上指導者養成研修の伝達
- ・指導者 秋田県教育庁保健体育科 安田 知明 指導主事

### (2) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日（木） ・会 場 城西小学校
- ・領域名 4年ベースボール型ゲーム「ティーボール」 ・授業者 茂内 公貴

#### ① 授業者から

- ・昨年度は野球の正規の規則に近い形でティーボールに取り組んだ。これを一旦リセットして、4年生では残塁のない規則でティーボールを実施した。
- ・場の設定は「本塁と一塁の往復」という形から「三角ベース型」そして「ダイヤモンド型」へ発展させている。アウトゾーンについても当初は2塁ベースの後方に1か所であったため、子どもたちとの話合いの中で3か所に増やした。
- ・子どもたちは、学習に取り組む前に個人のめあてを立てている。回数を重ねるにつれて、アウトゾーンに入る人や打球を処理する人というような役割分担やカバーリングなどについて話し合えるようになってきた。話合いが作戦を立てることに活かされている。
- ・2か所の会場で活動する子どもたちを見取るのは困難である。視点を決め、声かけの仕方、ベースへの入り方、判断良く投げているか、より良い方法を考えているかについて確実に見取るようにしてきた。
- ・野球の経験がある子どもやリーダーシップを発揮できる子どもを軸にして授業者が班を編制した。



【兄弟チームとのキャッチボール】

## ② 協 議

- ・アウトゾーンを選択することは、瞬時に判断する力を高めることにつながっていた。得点を少なくするための方法を考えさせたことが良かった。チームの人数もよく考えられていた。守り方を考えるための作戦がよく練られていた。
- ・アウトゾーンを3か所にすることで、チームの一人一人に“役割”ができる。守るための作戦については、ボールを追うのは一人で、他の人はベースに入るなど、よく考えることができていた。また、攻撃での作戦（ねらい打ちなど）の指導もよくなされていた。
- ・現在のルールでアウトゾーンを自由に選ばせると、ややもするとベースボールにつながりにくくなる懸念もある。
- ・ペットボトルの台や数種類のバットなど、打つことを苦手とする子どもへの配慮が多く見られた。また、会場を仕切るためのフェンスやボールを受けるためのスチロール製の板など参考にしたい点が多い授業であった。
- ・偶然に左右されやすい種目で「得点を与えないための守り方」を考えるのは難しいと感じた。内野（ダイヤモンドの内側）にアウトゾーンがあったらどうだったか。
- ・捕球したら〇点というように、捕ることの有効性を認められるような規則も考えたい。
- ・ねらいを達成できたかを評価するためには、振り返りの書かせ方が大切。ただの感想では不足である。カードの活用と書き方の指導を考えたい。カードの内容は、ねらいを達成させるために相応しかったのか考えたい。

## (3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 佐藤 勇一）

- ・子どもたちの運動に取り組む姿勢がとてもよかった。公正・公平な態度、安全に取り組もうとする姿勢、友達への温かい声かけ、素早い整列などすばらしい点がたくさん見られた。
- ・教師の細かい配慮、支援がよかった。準備運動に使う曲の選択やゲームにおけるルールの工夫、また、壁面に準備した活動計画などたくさんの工夫があった。一本筋が通ったぶれのない支援であった。
- ・指導要領解説によれば、中学年は攻め方の工夫が指導内容として記され、進塁を防ぐ守備の隊形の工夫は高学年の内容とされている。動きが十分に定着している子どもの実態からすればこの指導内容でもよいが、工夫の成果が実感されるようなルールも必要であった。
- ・技能の高め方として、キャッチボールなど基礎となる運動をゲーム化する方法もある。
- ・得点の係となっていたチームは、係の仕事によく取り組んでいた。スコア係は得点をつけるという観点だけではなく、作戦がうまく機能していたか、守備の工夫はどうであったかといった視点を与えるとよい。アドバイスがよい動きを引き出す手立てとなる。

## 4 成果と課題

## (1) 成 果

- ・全ての子どもたちが意欲的に取り組むためのルールの工夫、場の設定のアイデアがよくなされた授業であった。協議では、子どもの実態や発達段階に応じたルールの設定の仕方等について理解を深める活発な話し合いがなされた。

## (2) 課 題

- ・ねらいを達成できていたかをどのように評価するのか。振り返りの視点を明確にし、学習カードを有効に活用する方法を考える等、評価のあり方を見直すことが大切である。